

【事業者名称】ケアタウン南草津グループホーム ひまわりユニット

H21年 11月 5日評価実施

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念に基づく運営</b>					
I-1. 理念と共有					
1	1	<input checked="" type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流を掲げた理念を策定し、事業所内に掲示している。		
2	2	<input checked="" type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事業所内に掲示し、会議時に確認するなど共有する機会を設けている。		
3		<input type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所内の目につきやすい所に掲示してはいるが、理解に対する積極的な取り組みは実施していない。	○	運営推進会議や家族宛の文書(毎月の便り)等で、理念について理解してもらえるよう働きかけていきたい。
理念と共有 3項目中 項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		<input type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣に住居がない為、散歩に出ても住民に会わないことが多く、日常的なつきあいは出来ていない。	○	今後は日常的なつき合いが出来るような工夫が必要。
5	3	<input checked="" type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣学生の福祉体験実習受け入れや住民・家族に対して行事案内を行っている。また、地域での行事があれば出来るだけ参加するようにしている。		
6		<input type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議での話し合いから、地域から事業所見学の見学を受け、施設見学の他に認知症啓発の為に簡単な話をさせてもらっている。	○	継続的ではないので、今後積極的に取り組む必要がある。
地域とのつきあい 3項目中 項目					

自己評価項目	外部評価項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<input checked="" type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は意識の向上・自主性の向上に繋がるものとして、自己評価に参画した。		
8	5	<input checked="" type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業所内の活動を報告したり、意見をいただいている。		
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員に参加してもらっている。また、管理者が市の認知症連絡調整会議の委員となり、市担当者と話をする機会を設けている。		
10		<input checked="" type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内研修で学ぶ機会がある。また、利用者より依頼があれば、制度の説明やパンフレットを渡すなどの支援を行っている。		
11		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で学ぶ機会がある。管理者や主任は利用者に対する虐待の有無に注意している。		
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 項目					
I-4. 理念を実践するための体制					
12		<input checked="" type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に伴う契約時には、家族に対し十分な説明を行い、質問等には更に説明した上で署名・捺印してもらっている。		
13		<input checked="" type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見は、その都度職員間で検討したり、運営推進会議で報告し、委員から意見をもらう機会を設けている。		
14	7	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各利用者担当職員が、毎月「グループホームたより」に行事の他各利用者の状況を記載し報告している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input checked="" type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申し立てに関しては重要事項説明書に明記している。また、面会時には椅子やお茶の準備をし、家族がリラックスできる環境を作ったうえで、職員と話しをする時間を設けるようにしている。		
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内では、毎月1回会議を開催し、介護職員から意見をきいている。また、月1回の施設全体の管理者会議並びに月1回の管理者・理事長話し合いでは意見・提案を報告し、検討する機会となっている。		
17		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	特に職員が必要な時間帯があれば、勤務時間の変更や人事担当者に人材確保を適宜依頼している。		
18	9	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設内ではスキルアップの為の異動がある。また、離職は少ないが結婚・妊娠等や無を得ず退職する時は、予め利用者に伝えたり、退職する職員とゆっくり話しをする時間を持つなど配慮している。		
理念を実践するための体制 7項目中 項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の教育委員会が職員の意見を反映させながら年間研修計画をたて、職員が受講している。外部研修に関しては、毎年1人認知症介護実践者研修を受講してもらっているが、今年は出来ていない(他部署から受講の為)。	○	外部研修に関しては、計画的な取り組みが出来ていないため、年間計画を策定する必要がある。
20	11	<input type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	草津市内の他グループホーム管理者と情報交換の機会はあるが、定期的ではない。	○	情報交換会や会議開催時には積極的に参加するように調整する必要がある。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21		<input checked="" type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務表は職員の希望を出来るだけ反映し、可能な限り有給休暇が取得出来る様配慮している。また、勤務中も休憩時間・休憩場所を確保し、リラックスできる環境を作っている。		
22		<input checked="" type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員は年1回、施設上司と直接面談する機会があり、職員の勤務状況・思いやりのがい等を把握した上で、アドバイスを行っている。		
人材の育成と支援 4項目中 項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
II-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前又は入居時には、利用者本人と話をする機会を持っている。		
24		<input checked="" type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の見学時から、家族と話をする時間を設け、傾聴している。		
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際、入居に至るまでに長期間を要することが多い為、その段階で必要と思われる支援について助言し・紹介を行っている。		
26	12	<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族には、サービス利用前に見学してもらっている。また、状況によっては家族や知人の面会を依頼し、利用者が安心できるよう働きかけたり、利用開始当初は職員が出来るだけ側に付くよう心がけている。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 項目					
II-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<input checked="" type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に作品作りをしたり、散歩や買い物に行くなど共に過ごす時間を大切にしている。		
28		<input checked="" type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、お茶を飲みながらゆっくり話しをするなど、共に過ごす時間を大切にしている。		
29		<input type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係が良くない場合にも、職員は利用者・家族双方の気持ちを汲み取りながら対応している。	○	職員は、家族・利用者双方の気持ちを理解しながらも、より良い関係が築いていける支援までは出来ていない。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている	馴染みの人との面会を推奨し、本人の希 望に応じて電話やfaxの支援を行って いる。		
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関 わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のトラブル等でユニット変更し た場合でも、ユニット内で馴染めるよう に利用者同士が関われるよう配慮して いる。		
32		<input type="checkbox"/> ⑥ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者 や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在までは契約終了後も継続的に関わる 必要がある(と考えられる)事例はない が、今後必要な場合は継続したつきあ いを行っていきたい。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>Ⅲ-1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	<input checked="" type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアの中で、利用者個人の意向や希望を聞き、ケアに活かすようにしている。また、意思表示が困難な利用者については、その行動や表情から希望を汲み取りケアに活かすよう努力している。		
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や本人からそれまでの生活について情報を得ている。		
35		<input checked="" type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活パターンや出来ること・介助が必要なこと等、職員はそれぞれ理解し、日々のケアを行っている。		
一人ひとりの把握 3項目中 項目					
<b>Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成に当たって、家族には入所前や来訪時等必要に応じて意見を伺っている。職員は、利用者本人の言動に注視し、本人の思いを知ることができる様に口頭や記録で伝達し、意見を出し合っている。介護計画は、本人の日常のペースを基本に作成している。	○	利用者本人と職員・家族・その他の関係者とのやりとりがきちんと伝達され、今以上に思いが汲み取れた計画作成と実践ができる様にしていきたい。
37	16	<input checked="" type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	困難ケースや要介護度が大幅に変更された利用者については、毎月の会議時等で話し合っている。その他のケアの変更・統一に関しては、日々の申し送りの際に職員の意見を集約し、適切と思われるケアを決定している。また、医師や家族には、必要時意見を求めるようにしている。	○	全利用者について、定期的なケアの適正度評価や見直しが行えるようにしたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38		<input checked="" type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録や別紙の申し送り用紙にて、その日の状況・継続した状況の記録が参照できるようにしており、情報の共有に繋がっている。	○	口頭のみで記録に残らない出来事もある為、今より詳細に記録に残すことを意識し、検討課題を早期に見つけられるようにしたい。
介護計画の作成と見直し 3項目中 項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護職員を配置し、必要時に適切な医療が提供できる体制をとっている。また、他部署の利用者との交流や催事に参加している。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 項目					



自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の学校生徒・ボランティア等の受け入れ、民生委員との連絡等行っている。		
41		<input type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、他の介護保険サービス希望利用者はなく、実際のサービス利用もない。	○	例えば在宅復帰に向けて、地域の介護支援専門員や他サービス事業者との協力は必要であると考える。
42		<input type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護については、既に利用している利用者がいるが、地域包括支援センターとの協働ではない。	○	支援困難なケース等、今後必要に応じて地域包括支援センターとの協働を図りたい。
43	18	<input checked="" type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在2名の医師による訪問診療が1回/2週間ずつ行われているが、本人の希望・専門等により、他の医療機関の受診支援も行なっている。		
44		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の希望により、認知症専門医への受診支援を行っている。また、認知症専門医である隣接の老人保健施設長に相談し助言をもらう機会がある。		
45		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置し、日常の健康管理はもちろん、必要時に適切な医療が提供できる体制をとっている。		
46		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時は、病棟看護師・主治医との連絡・連携をとっている。また、退院に向けては、担当医療相談員と連絡をとり連携を図っている。		
47	19	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けては、早い段階から医師または看護師から家族に対して説明を行い、以後のケア方針についての話し合いを行っている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		<input checked="" type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	夜間・休日の医療体制確保の為、必要時は訪問看護ステーションと協力し対応している。		
49		<input checked="" type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居の際には、家族だけでなく居宅介護支援専門員または前入所先相談員等から情報を得た上で、利用者本人のケアを行っている。		
地域資源との協働 10項目中 項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
IV-1. その人らしい暮らしの支援					
IV-1. (1) 一人ひとりの尊重					
50	20	<input checked="" type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	個人情報の取り扱いについては会議等で職員間に周知徹底している。日々の記録(排泄表を含む)は利用者の目に付かない場所に置くよう注意している。また、高齢者の自尊心を傷つけないよう、言葉遣いには気をつけている。		
51		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	介護者の意向を押し付けることなく、利用者の思いを聴くよう時間をかけて接している。また利用者の能力に合わせた説明を心がけている。また、意思表示が困難な利用者に対しては、表情や態度によってその思いを汲み取るように努力している。		
52	21	<input checked="" type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の趣味や残存能力を活かした家事活動等、利用者のペースで行えるよう配慮している。また「外に出たい」等希望時は、他利用者のケアに支障がないよう職員間で協力し合い、出来るだけ希望に沿った対応をしている。		
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 項目					
IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		<input checked="" type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣時は、利用者に衣類の選択を促している。理美容については、2週間に1回施設内でサービスが受けられるが、希望される方には地域の理美容店を利用してもらっている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	22	<input type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、厨房で作られたものを施設に運んでいる。施設内で盛り付け・配膳をする際には、利用者と供に行っている。また、毎週月曜日は食事作りの日とし、献立・調理・盛り付け・片付け等職員・利用者が共同で行っている。しかし、食事介助(見守り・声掛け等)が必要な利用者のケアのため、職員と利用者が共に食事を楽しむ状態ではないのが現状である。ただ、外出時の食事やバイキング等、職員と利用者が共に食事を楽しむ機会も設けている。	○	日常では、食事介助(見守り・摂取介助・声かけ等)が必要な利用者が多数おられるため、なかなか利用者と職員が共に食事を楽しむことは難しい。しかし、利用者との信頼関係を強めたり、会話しながら食事を楽しんでもらう為にも今後職員・利用者が共に食事をする機会を設けたい。
55		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつは複数準備し、利用者の希望に応じて提供している。また、喫煙される方にも、希望時に喫煙してもらえるよう支援している。		
56		<input checked="" type="checkbox"/> ④気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握を行っている。また、排泄の意思表示が困難な利用者に対しては、排泄パターンを理解し、トイレ誘導を行うなど、失禁による不快感の減少に努めている。		
57	23	<input type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、利用者の希望を取り入れ原則決めているが、それ以外でも希望があれば入浴できるよう配慮している。また、入浴を拒否される方には声かけや対応を工夫し、最低でも週2回入浴していただけるよう配慮している。しかし、職員の人員配置や介助量の問題から、1日中いつでも入浴できる体制は取れていない。	○	夜間の入浴は困難であるが、できるだけ利用者の希望に沿った入浴支援をしていきたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	意思表示が出来る方には、休息時や入床前に温かい飲み物を提供したり、希望時には職員と話をするなど支援を行っている。また、意思表示が困難な利用者には、室温や衣類の調整等の支援を行っている。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	<input type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、庭の水遣りや草引き、ユニット内の掃除等は出来る利用者が役割を持ってされている。ただ、入居者全員が能力に応じた役割分担を持つまでには至っていない。	○	全ての利用者が能力に応じて役割分担をもつことは困難であると思うが、楽しみを持って生活できる様に支援していきたい。
60		<input checked="" type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、原則事業所預かりで管理しているが、希望があれば所持してもらえる。		
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は希望があれば日常的に行なっている。また、近隣にはない場所(所在地の誤認による)に行きたいとの希望があれば、一緒に外へでて本人が納得するまで歩く等の支援を行っている。また、庭に面したウッドデッキで日光浴したり、庭にでて土に触れたりする機会がある。		
62		<input type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回は外出行事を企画し、車に乗って皆で出かける機会を設けている。また、外出の希望時は家族と相談し、家族と供に出かけられるよう支援している。	○	個別的に、普段行けないような場所(例えば遠方)への外出支援は十分とはいえない。今後、一人ひとりの利用者の希望を把握し、外出の機会を作りたい。
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	公衆電話は設置しておらず、利用者が気軽に電話できる状況にはなっていない。しかし、希望があれば事業所の電話を使用してもらったり、電話を取り次ぐ等の支援を行っている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の家族・知人等が訪問された際には、椅子やお茶等準備し、ゆっくりくつろぎながら利用者と過ごす時間を尊重している。		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 項目					
IV-1.(4) 安心と安全を支える支援					
65		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止については、身体拘束廃止委員会を中心に、職員参加で年1回の勉強会を開催している。また、契約書内に身体拘束はしない旨記載し、実際に身体拘束は行っていない。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	<input type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・ユニット間出入り口の鍵はかけていない。しかし、今年2月・6月に徘徊利用者が離設され、地域住民に保護されたり出勤途中の職員が発見する事態があり、安全確保のために玄関は施錠している現状である。離設リスクの高い利用者は、もともと他県出身者で、施設周辺の土地勘はなく、一旦離設すると何処に向かうか不明な為、発見が困難になる可能性が高い。	○	玄関の鍵は、昨年12月の移転当時は夜間以外開錠していたが、利用者の離設を受けて、現在も日中は施錠している。しかし、この状態を当然と考え継続していくのは本来の事業所の姿勢から逸脱している為、今後の対策を早急に検討する必要がある。
67		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、最低1名は必ずユニット内の見守りを行うように協力しあっている。利用者が居室におられる場合でも、ドアを開け放しにはせず、その都度所在確認・安全確認のため訪室している。		
68		<input checked="" type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在の所、特に利用者にとって注意が必要な物品はない。		
69		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	施設内のリスクマネジメント委員会を中心に、事故防止マニュアルを作成し、リスク軽減の検討を行っている。また、転倒リスクの高い利用者に対しては、職員間で周知した上で、見守り強化・気分転換活動の推進等を行っている。		
70		<input type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応・AEDの使用方法については最低年1回勉強会を開催し職員は学習している。また、緊急時の連絡体制等整っているが、初期対応に関する定期的な訓練は行っていない。	○	実際に急変・事故発生時・災害発生時についての定期的な訓練実施を計画する。
71	27	<input type="checkbox"/> ⑦災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	単独型施設になってから、消防署の協力を得て消防訓練を行っている。今年は7月30日に実施した。また、事業所内にはスプリンクラーを完備し、カーテン等も不燃素材を取り入れている。	○	災害時に、地域との連携を図れる体勢が整っていない。事業所自身が福祉避難所になる可能性もあり、日頃から地域住民との連携がとれるよう働きかける必要がある。


自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72		<input type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	特に離設リスクの高い利用者について、その危険性を家族に説明し、相談・了承の上で玄関施錠を行っているものの、利用者にとって抑圧感のない暮らしとは言いえない。	○	66同様。
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input checked="" type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常勤の看護師を配置し、日常的な健康管理を行っている。また、状態変化時等は、24時間看護師・医師に連絡できる体制が整っている。		



自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		<input checked="" type="checkbox"/> ②服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容は個人カルテに薬の説明書を保管し、各職員が閲覧している。また、臨時薬等普段と薬の内容が違ふ際には、袋に色分けするなどし、内服の種類・必要性を申し送り、服薬の支援を行っている。		
75		<input checked="" type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘時は、安易に薬に頼ることなく、眠前に温かい牛乳を提供したり、腹部のマッサージをするなど、それぞれの利用者にあわせた対応をしている。		
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	今年7月から訪問歯科診療が開始になり、歯科医師・歯科衛生士の指導の下口腔ケアを行っている。		
77	28	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・排泄状況等、毎日チェック表に記入し、利用者状況の把握を行っている。その中で、摂取量が少ない場合は、好きなおやつや栄養価の高い飲み物を提供するように支援している。また、必要時は施設内管理栄養士に相談・助言をもらえる体制がある。		
78		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設内の感染対策委員会を中心に、感染症に関わるマニュアルが策定されている。また、感染予防のために、職員だけではなく、利用者の手洗い・嗽を励行し、感染拡大予防に努めている。		
79		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	事業所内の台所は日常調理に使用しているわけではないが、職員は衛生環境を保持するよう注意している。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
		IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり			
80		<input checked="" type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはフラワーポットを置き、和やかな雰囲気作りを行っている。		
81	29	<input checked="" type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下は、天窗やウッドデッキに面した大きな窓から採光し、自然光を取り入れている。また、季節ごとに職員と利用者が共同で作品を作り、ユニット内に展示し季節感を取り入れている。また、食堂・浴室等は適宜清掃し、清潔感の保持に努めている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input checked="" type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は各自慣れた自分の場所がそれぞれあるが、ソファや他の椅子等、思い思いに過ごしてもらっている。		
83	30	<input checked="" type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、家から家族の写真や趣味の道具(釣り道具)等なじみの物や使い慣れた物を持参してもらっている。		
84		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は適宜行っている。また、居室空調は、利用者の希望に応じてリモコンを渡しており、好きなように調整してもらっているが、適宜職員が室温の確認を行い外気温と極端な差がないよう配慮している。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニットホール・廊下・トイレ・浴室等には手すりを整備し安全に歩行できるよう配慮している。また、万一の転倒に備え、クッションフロアを取り入れている。		
86		<input checked="" type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりに応じた説明の仕方やし方をし、利用者が出来るだけ理解出来、混乱しないよう注意している。		
87		<input checked="" type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	平成20年12月に現在の建物に移転後、以前には無かった庭やウッドデッキが出来、利用者は日光浴をしたり、庭いじりを自由にされている。		
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 項目					

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
項目		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年、現在の地に事業所が移転し、平屋で庭付きの建物で、利用者は職員と供に庭に出て水遣りや草引きをしたり、ユニット内の掃除をしたりとより家庭的な雰囲気の空間になってきた。それぞれの職員が、利用者一人ひとりの言動や表情でその思いを汲み取れるよう日々努力しており、その結果が利用者様の笑顔に繋がっていると思う。

# 評価結果整理表

個別表		□のチェック項目数
<b>I 理念に基づく運営</b>		
－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念と共有	2 項目/3項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 地域との支え合い	1 項目/3項目
－3.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
－4.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
－5.	<input checked="" type="checkbox"/> 人材の育成と支援	2 項目/4項目
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>		
－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	4 項目/6項目
<b>III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		
－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3 項目/3項目
－3.	<input checked="" type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	8 項目/10項目
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>		
<b>IV－1. その人らしい暮らしの支援</b>		
－1. (1)	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
－1. (2)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	4 項目/6項目
－1. (3)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	4 項目/6項目
－1. (4)	<input checked="" type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	4 項目/8項目
－1. (5)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
<b>IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>		
－2. (1)	<input checked="" type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
－2. (2)	<input checked="" type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

## 総合評価

### I 理念に基づく運営 ( 5項目/5項目)について

地域との交流は、催事や学校生徒・ボランティアの受け入れにとどまっている。利用者が地域で暮らす一員であることを大切にする為にも、地域との日常的な付き合いを積極的に行う必要がある。職員の質の向上の点では、内部研修は計画的に実施しているが、外部研修に関して年間計画を策定し、質の向上に繋げる必要があると考える。また、地域の他のグループホームとの交流を図り、定期的な集まりや情報交換の場に積極的に参加し、事業所全体の質の向上に向けた取り組みを行う必要がある。

### II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 ( 2項目/2項目)について

職員は、利用者・家族との信頼関係構築の第一歩として、入居前から見学・相談を受け、利用者・家族と話をする機会を持っている。また、入居後も、職員は利用者と共に過ごす時間を大切にしながら、家族の面会を依頼したり利用者本人が混乱せず安心して暮らせるよう支援している。

### III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント ( 4項目/4項目)について

利用者の思いや希望を尊重し、その人らしく生活できるよう支援する為に、職員は更に利用者一人ひとりに目を向け、理解することに努めていきたい。介護計画については、職員間で情報を共有した上で作成しているが、今後、積極的にカンファレンスの場を設定し、定期的な評価や見直しを行い、全職員が共通理解した上で計画実践に繋がるよう取り組む必要がある。

### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 ( 7項目/7項目)について

利用者が、その有する能力に応じて役割をもち、その人らしく生き生きと生活してもらおう為にも、職員は意思表示が困難な利用者に対してもその思いを汲み取れるよう努力が必要である。日常生活援助の一つの入浴に関しては、全ての時間で好きなように入浴していただくのが基本であるとは考えるが、全ての利用者に介助が必要な状況(場合によっては二人介助が必要)の中で、いつでも入浴できる体制は整っていない。特に夜勤帯での入浴は困難ではあるが、希望の時間に近い時間帯で入浴支援できるよう配慮していきたい。また、個別の外出支援の点でも、希望のあるないに関わらず、全ての利用者に対して十分であるとは言えないため、今後は他の利用者のケアに支障がないよう人材確保を考慮するなど、十分な外出支援が出来るように努めたい。更に、玄関の施錠について、移転後利用者が複数回離設することがあり、安全対策として施錠しているが、施錠以外での安全確保の方法を早急に検討し、出来るだけ開錠のまま過ごせるよう工夫する必要がある。

### V サービスの成果に関する項目について

取り組みの成果として、よく出来ている面はあるものの、不十分な点も明らかになっている。不十分な点に関して、特に個別の外出支援があり、利用者の希望を傾聴する・思いを汲み取ることに更に努力し、具体的な取り組みを決めていく必要がある。

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

ケアタウン南草津グループ

事業者名称 ケアタウン南草津グループホーム ひまわりユニット

評価年月日: H21年 11月 5日

前回評価年月日: H19年 9月 30日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的な 行動	達成度評価	次期評 価実施 時期
評価項 目番号	優先 順位	内 容				
66	1	玄関の施錠をせず安全確保出来る方法を実践する。	H21.12月～ H22.3月	1. 現状の理解。 2. 徘徊・離設利用者の行動パターンの把握。 3. 離設の可能性がある利用者に役割をもってもらい、施設での生活を楽しいと感じてもらう。 4. 玄関の開錠に伴い、予測されるリスクと対策の検討。		H22.3月
59・62	2	利用者が、その有する能力に応じて役割分担を持ち、張り合いある生活を送ってもらおう。また、意思表示が困難な利用者も、何らかの楽しみを持てるよう支援する。更に個別ケアの一環として、希望に沿った外出支援を行う。	H21.12月～ H22.3月	1. 利用者の出来ること・出来ないこと、好きなこと嫌いなことについて更に把握する。 2. 利用者個々の外出希望を把握した上で、人員調整を図りながら外出支援に取り組む。 3. 事業所が自由に使用できる自動車購入の検討。		H22.3月
4・6・71	3	地域との日常的な付き合いを持ち、利用者に地域住民の一員である喜びを感じてもらおう。また、日頃の付き合いから災害発生時等の緊急時に協力できる体制を作る。	H21.12月～ H22.3月	1. 日常的に地域に外出し、近隣住民との関わりを持つ。 2. 催事案内やボランティア・学校生徒の受け入れはこれまで通り継続して実施する。 3. 運営推進会議時に、地域との交流について各自治体関係者と話し合う。		H22.3月
19	4	職員の質の向上のために、外部研修参加の計画を策定する。	H21.12月～ H22.4月	1. 外部研修情報の収集 2. 参加研修と参加職員を決定		H22.4月